

Ⅶ. 調査結果（総括）

VII. 調査結果（総括）

1. 今回調査の概要

（1）調査目的

本調査は、市民、学生、有識者、職員の市政に対する意識を把握・分析し、次期総合計画に反映させるための基礎資料とすることを目的とする。

（2）調査対象・調査方法・回収状況

	市民	大学生、短大生・高校生	有識者	職員
調査対象者	長崎市民 18 歳以上男女個人	市内の大学生、短大生、高校生	市政に識見のある方（市外居住者を含む）	長崎市職員
対象者抽出方法	住民基本台帳より単純無作為抽出	大学、短大、高校に一任	市にて有意抽出	市にて有意抽出
調査方法	郵送法	大学、短大、高校を通じて配布	郵送法	関係所属に依頼して配布、回収
調査票配布件数	3,000 件	1,198 件	232 件	500 件
有効回答件数	N=1,264	N=804	N=142	N=492
有効回収率	42.1%	67.1%	61.2%	98.4%

（3）調査主体

長崎市 企画財政部 都市経営室

（4）報告書の見方

- 1) 比率は百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。このため、百分率の計が 100%にならない場合がある。
- 2) 基数となる実数は n として掲載した。その比率は件数を 100%として算出した。
- 3) 1 人の回答者が複数回答を行う設問では、その比率の合計が 100%を上回ることがある。
- 4) 図表中には、回答者数が非常に少ない場合がある。このような場合には、回答比率の数字が動きやすく、厳密な比較をすることが難しいので、回答の傾向を見る程度になる。
- 5) 図表の各項目は表示の関係上省略して表示する場合がある。

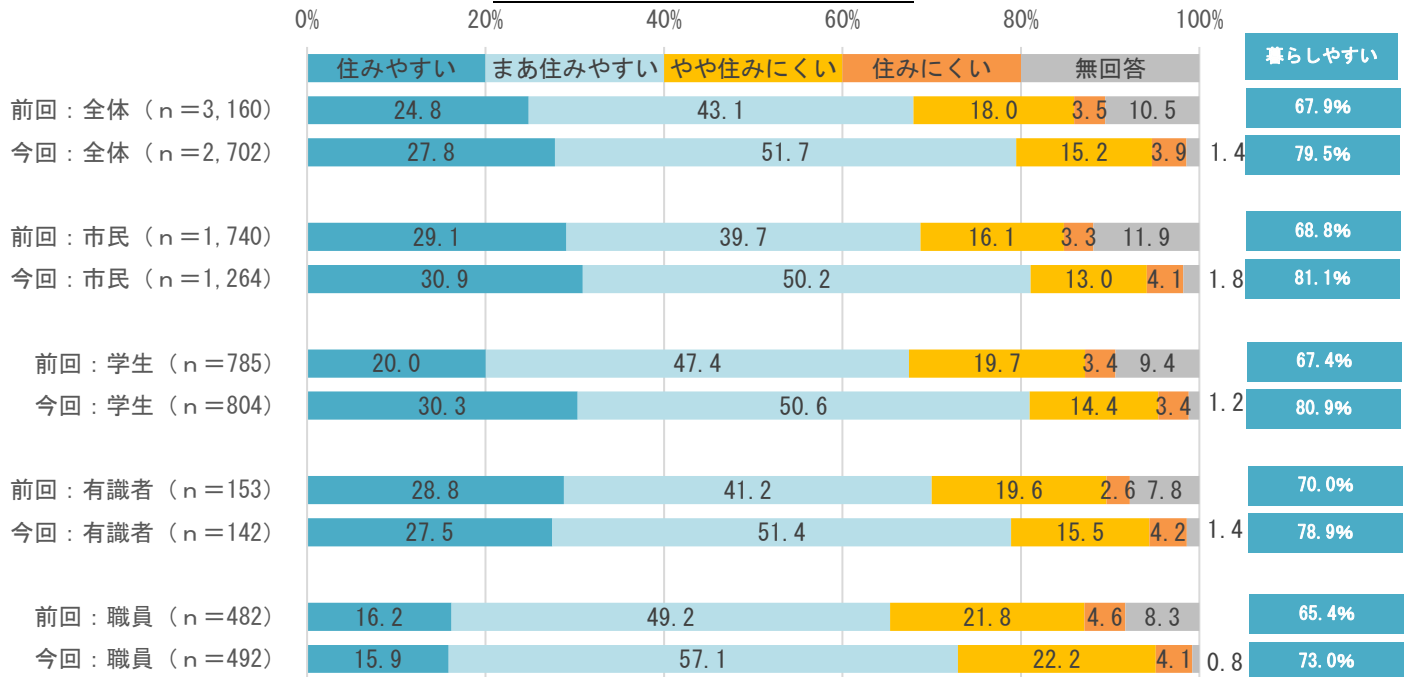
(5) 共通調査項目概要

1) 長崎市の住みやすさ

長崎市の住みやすさは約8割が「暮らしやすい」と回答し、「暮らしにくい」は約2割であった。これは10年前の前回調査と比べ1割以上「暮らしやすい」が増加している。

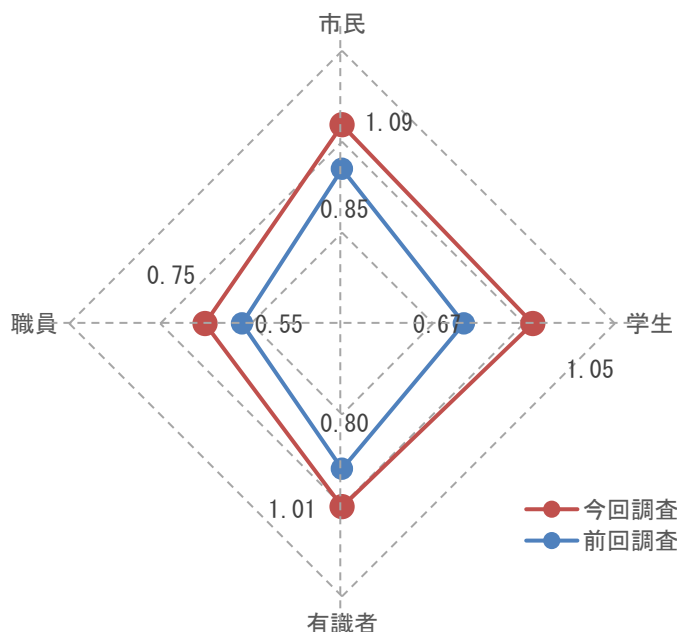
一方、暮らしやすい理由としては「郷土・ふるさとであるから」「治安が良い」「自然環境が良い」「普段の買い物がしやすい」「交通の便が良い」が挙げられており、逆に、暮らしにくい理由としては「交通の便が悪い」「働きやすい環境が整っていない」「普段の買い物がしにくい」「アミューズメント・娯楽施設が少ない」が挙げられている。

図表Ⅱ-1-1：長崎市の住みやすさ



※暮らしやすい＝「住みやすい」＋「まあ住みやすい」以降同様
 ※暮らしにくい＝「やや住みにくい」＋「住みにくい」以降同様

図表Ⅱ-1-2：長崎市の住みやすさ（平均スコア）



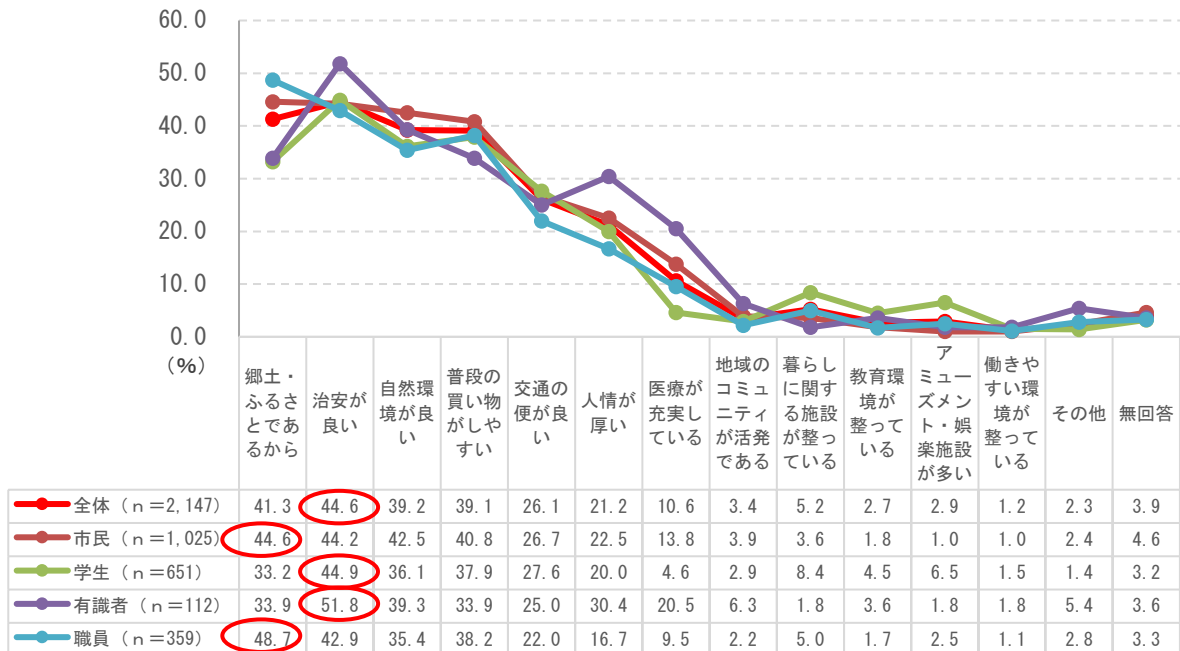
以降、平均スコアの求め方は以下の通り

$$\text{平均スコア} = \frac{\text{「住みやすい」} \times 2 + \text{「まあ住みやすい」} \times 1 + \text{「やや住みにくい」} \times -1 + \text{「住みにくい」} \times -2}{\text{全回答者数} - \text{無回答者数}}$$

暮らしやすい理由は全体で、「治安が良い」が44.6%で最も多く、次いで「郷土・ふるさとであるから」が41.3%、「自然環境が良い」が39.2%で続いている。

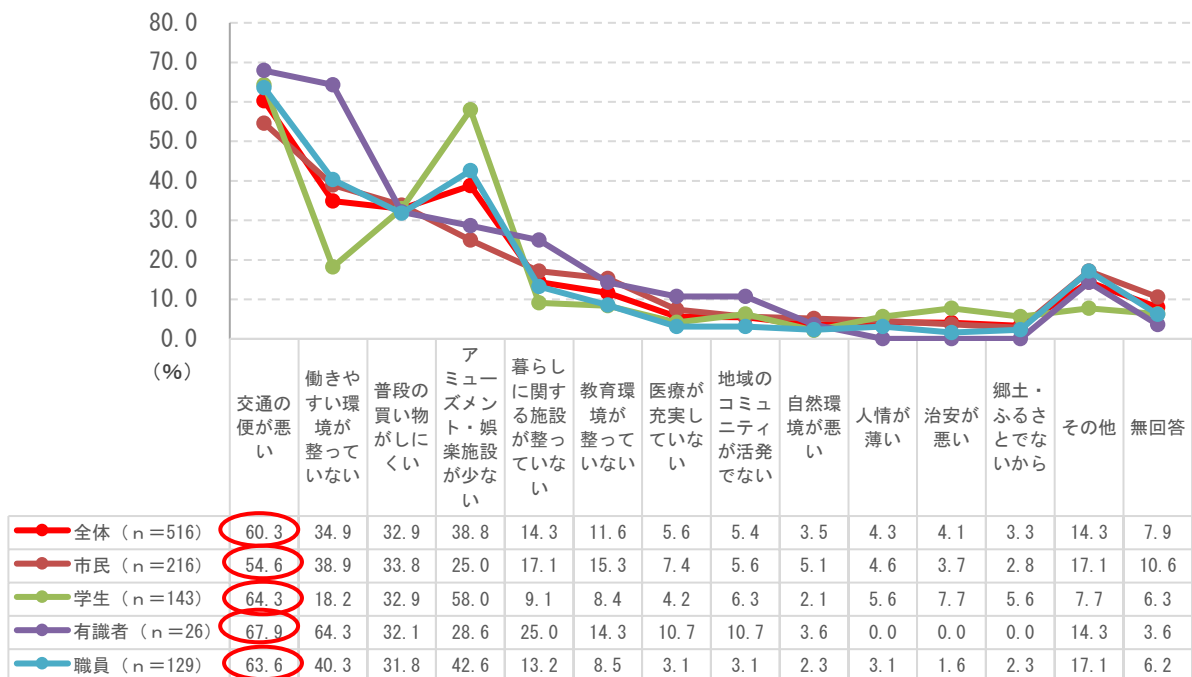
暮らしにくい理由は全体で、「交通の便が悪い」が60.3%で最も多く、次いで「アミューズメント・娯楽施設が少ない」が38.8%、「働きやすい環境が整っていない」が34.9%で続いている。

図表VII-1-1：暮らしやすい理由



○ 最大値

図表VII-1-2：暮らしにくい理由



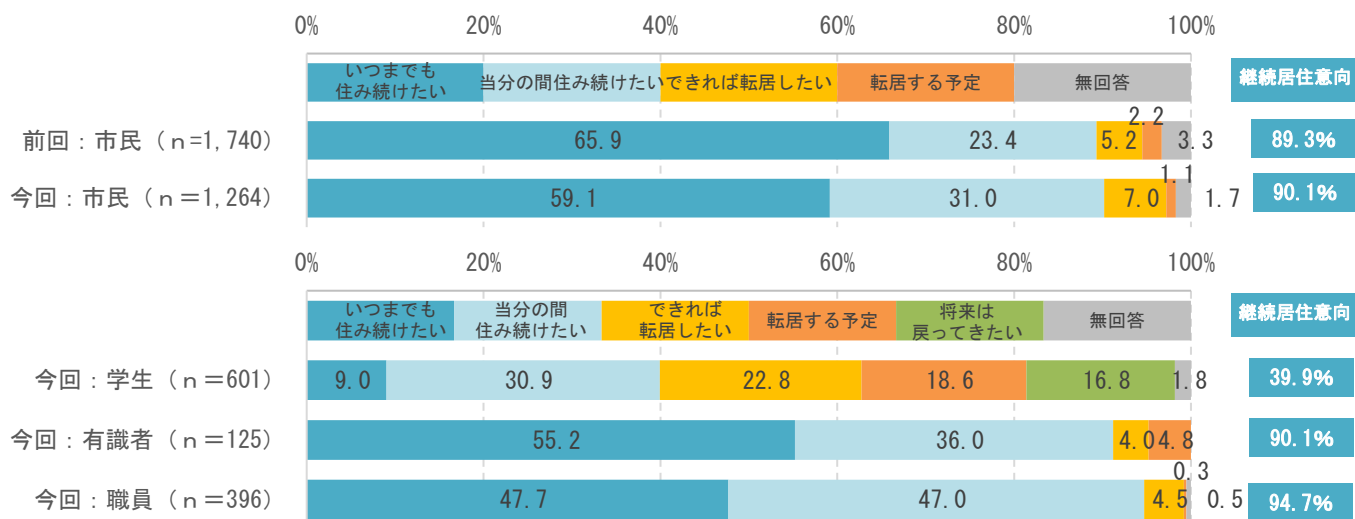
○ 最大値

2) 長崎市への居住意向

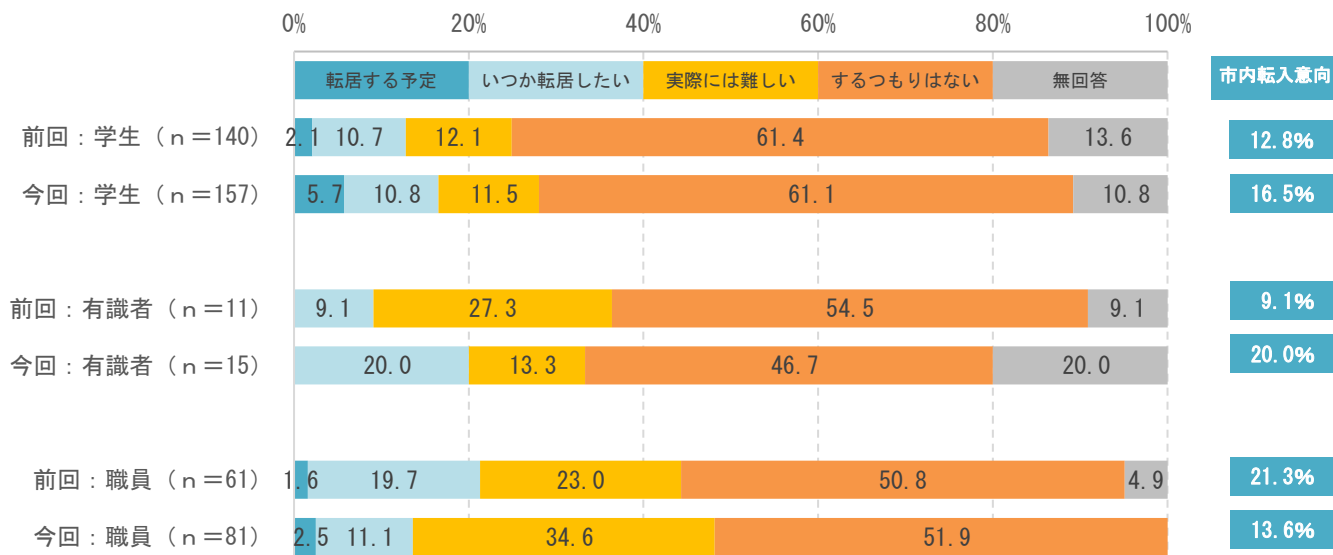
長崎市への継続居住意向は、市民では9割程度あり、前回調査をやや上回ったものの、学生は転居意向が約4割ある。

一方、長崎市外在住者の市内転入意向は、市職員以外は前回調査より増えているものの2割未満であり、転入意向は低いままとなっている。

図表Ⅱ-1-7：長崎市への継続居住意向



図表Ⅱ-1-8：長崎市への転居意向

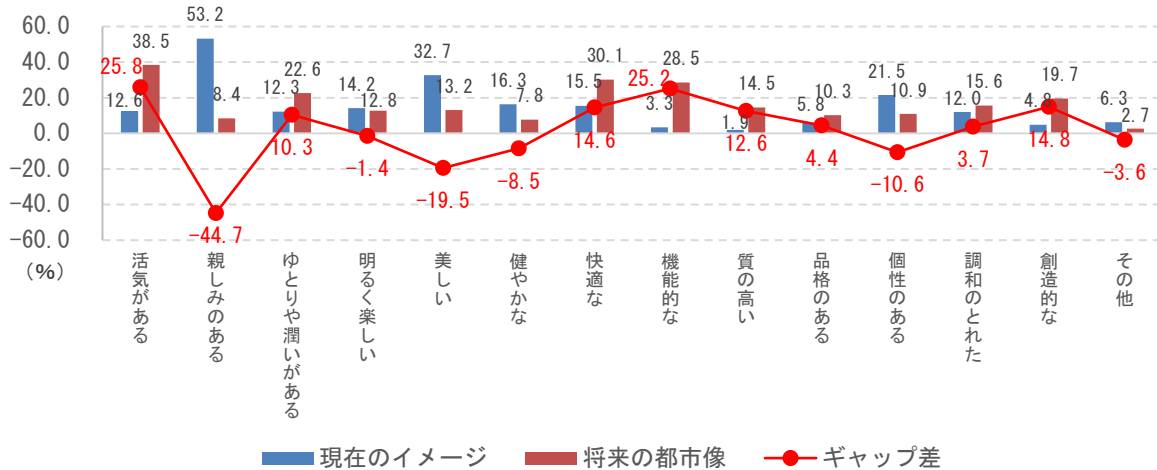


3) 長崎市のイメージにふさわしいキーワード

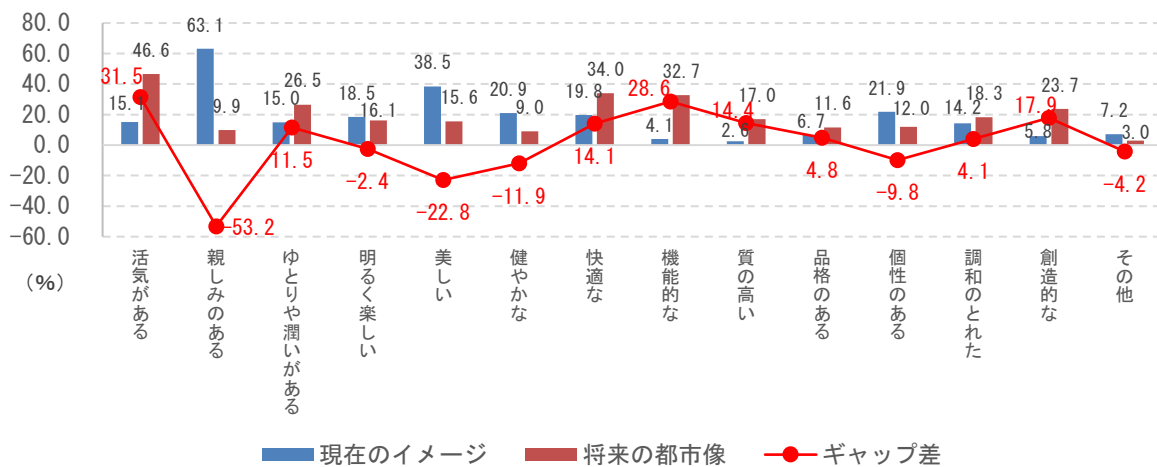
長崎市の現在をイメージするキーワードは「親しみのある」「美しい」「個性のある」「健やかな」が挙げられ、将来の都市像としてのキーワードは「活気がある」「機能的な」「快適な」「ゆとりや潤いがある」「創造的な」が挙げられている。

また、現在のイメージと将来の都市像のイメージを前回調査と比べるとほぼ同様の傾向であるが、個々の項目のギャップを見ると「快適な」「個性のある」を除きギャップの差は前回調査よりも縮まっている。

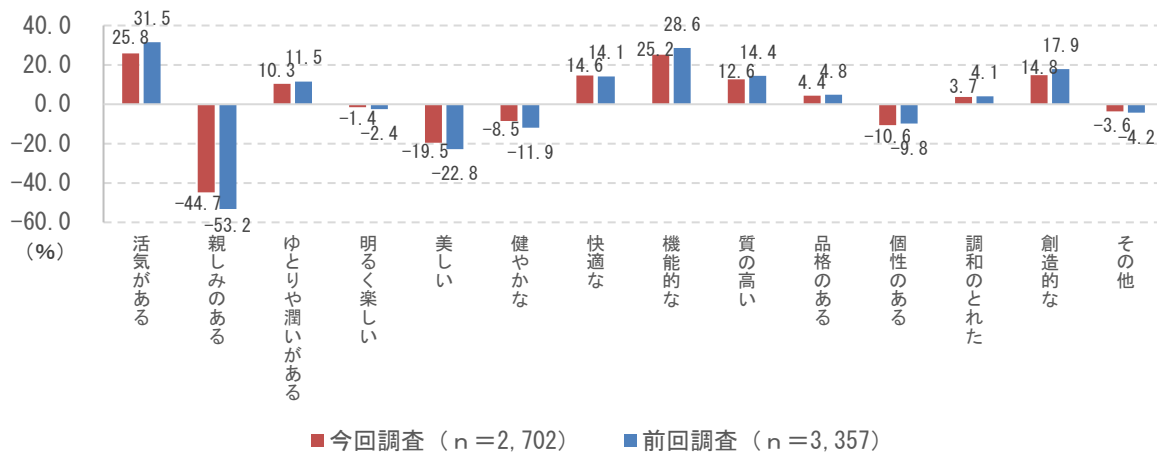
図表VII-1-3：現在と将来像のキーワード比較（今回調査：全体）



図表VII-1-4：現在と将来像のキーワード比較（前回調査：全体）



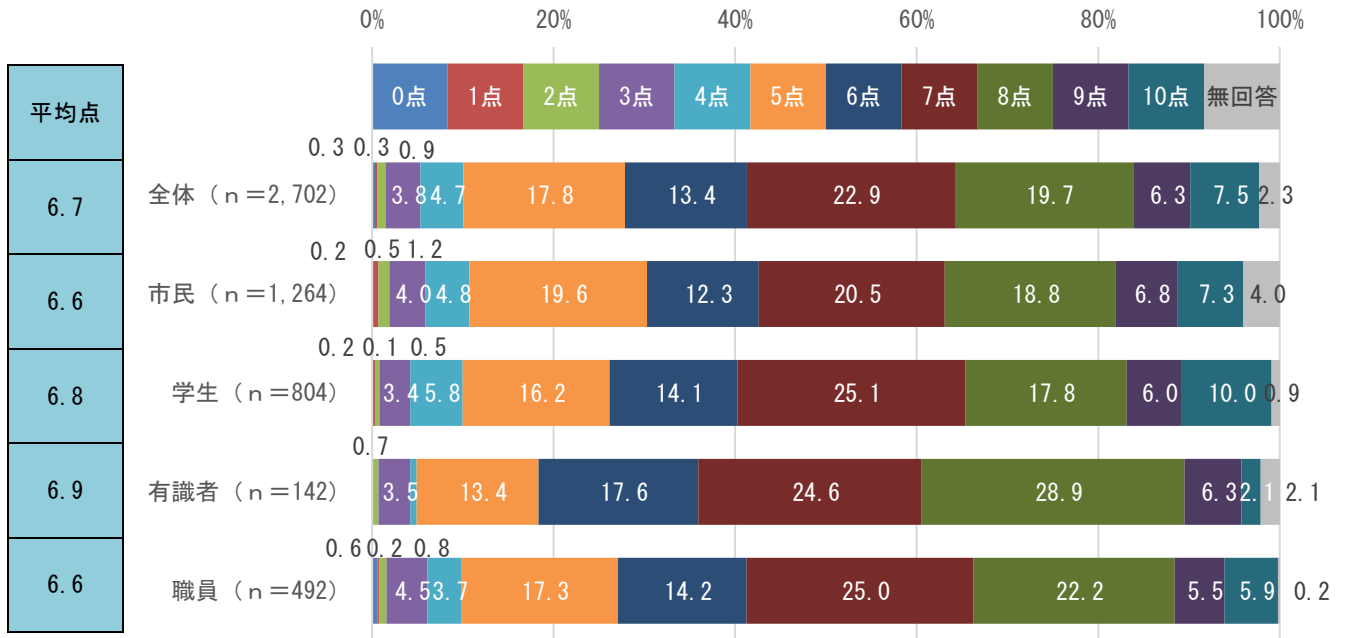
図表VII-1-5：現在と将来像のギャップの差比較（全体）



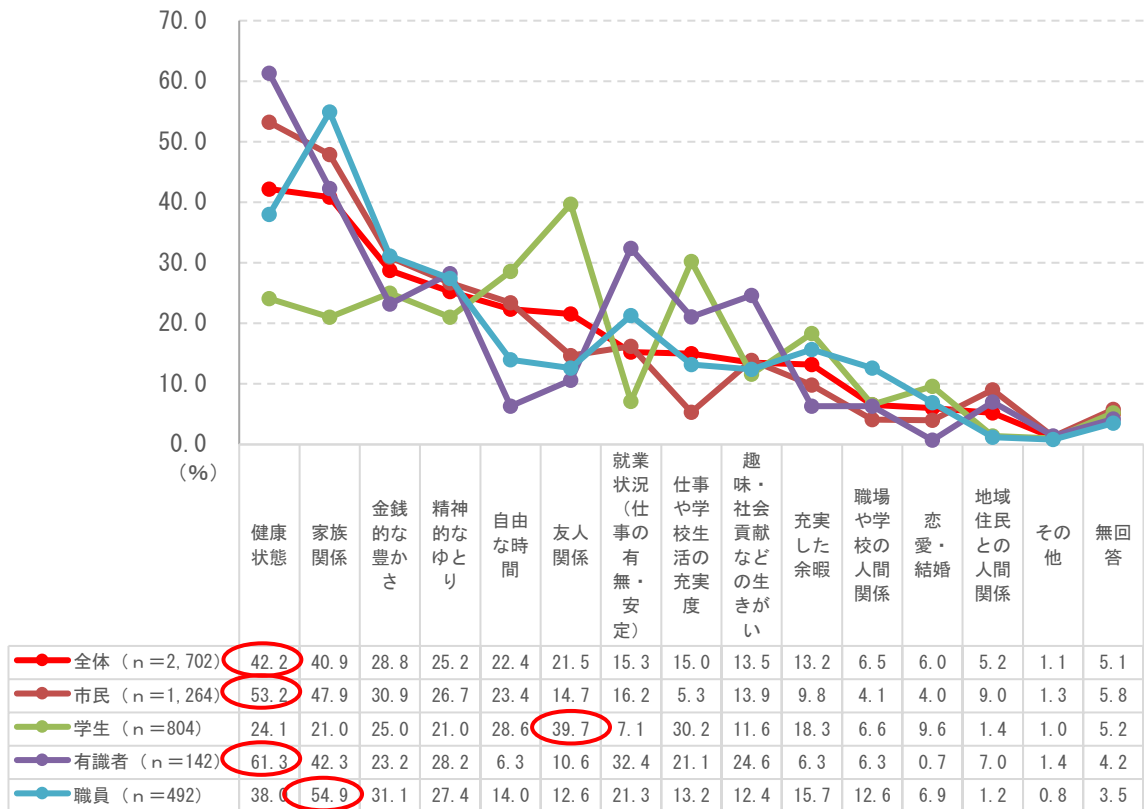
4) 幸福感

現在の幸福感を点数で表すと 10 点満点の 6 点以上が約 7～8 割を占めており、幸福感の判断には「健康状態」「家族関係」「金銭的な豊かさ」「精神的なゆとり」が重要視されている。

図表Ⅶ-1-6：現在の幸福感



図表Ⅶ-1-7：幸福感の判断に重要視すること



○ 最大値

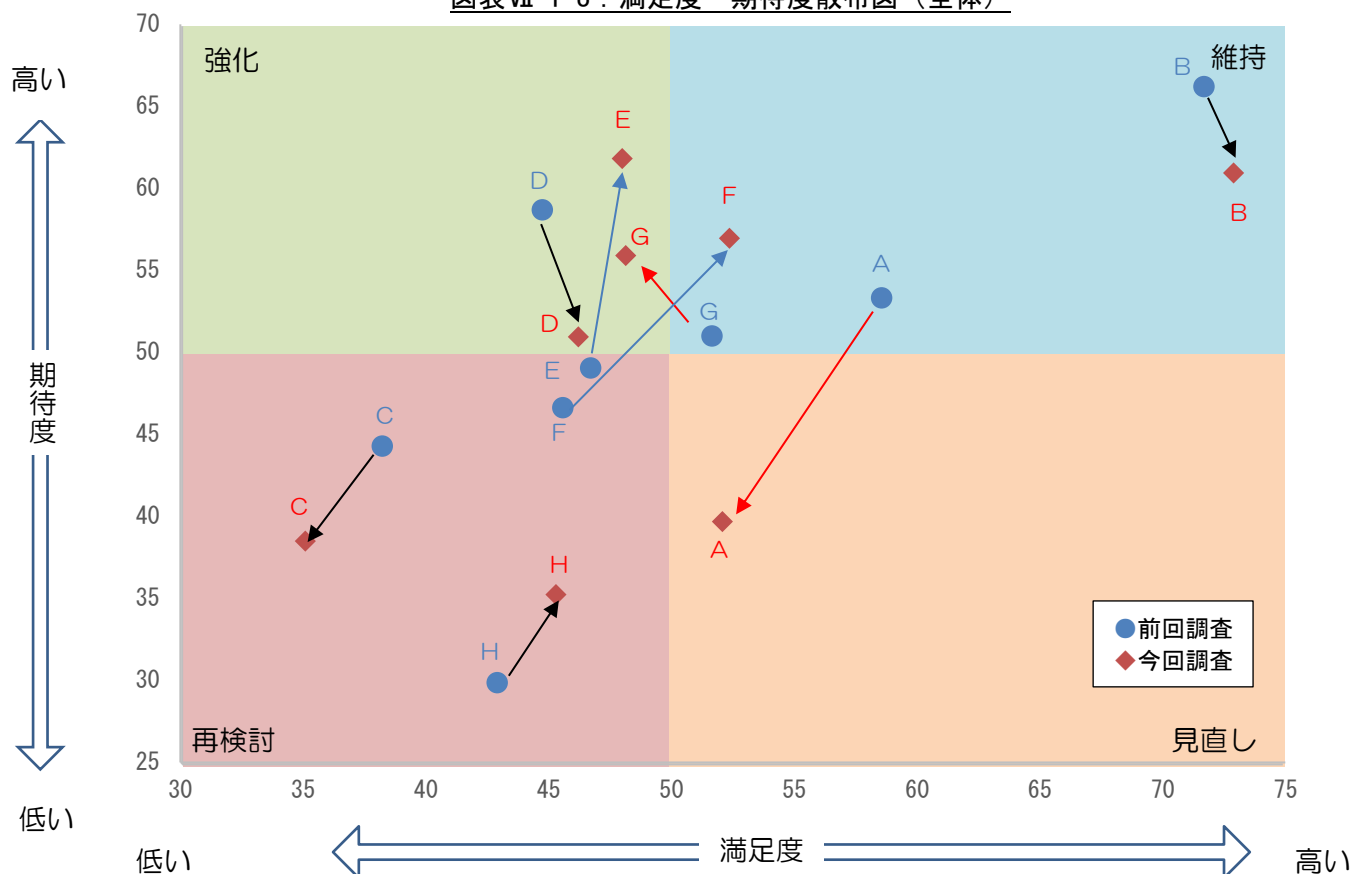
(6) 施策評価

1) まちづくりの方針ごとの評価比較

今回と前回の調査を第四次総合計画のまちづくりの方針ごとに、回答者全体での期待度・満足度により分類すると、「F:人にやさしく、地域でいきいきと住み続けられるまち」が「再検討」から「維持」へ、「E:安心・安全で快適に暮らせるまち」が「再検討」から「強化」へ評価を上げており、「G:豊かな心を育むまち」は「維持」から「強化」へ、「A:住む人が誇り、誰もが訪れたいまち」は「維持」から「見直し」へ評価を下けている。

※各まちづくりの方針の評価の出し方は基本施策の平均の偏差値をもって表している。

図表VII-1-8：満足度・期待度散布図（全体）



※評価区分は以下の通り

- 「維持」：期待度、満足度ともに高いため、現在のサービス水準の維持が求められると考えられる。
- 「強化」：期待度が高く、満足度が低いため、重要かつ緊急的に対処すべき課題と考えられる。
- 「見直し」：期待度が低く、満足度が高いため、行政コストの見直しが考えられる。
- 「再検討」：期待度、満足度ともに低いため、サービス提供自体の再検討が考えられる。

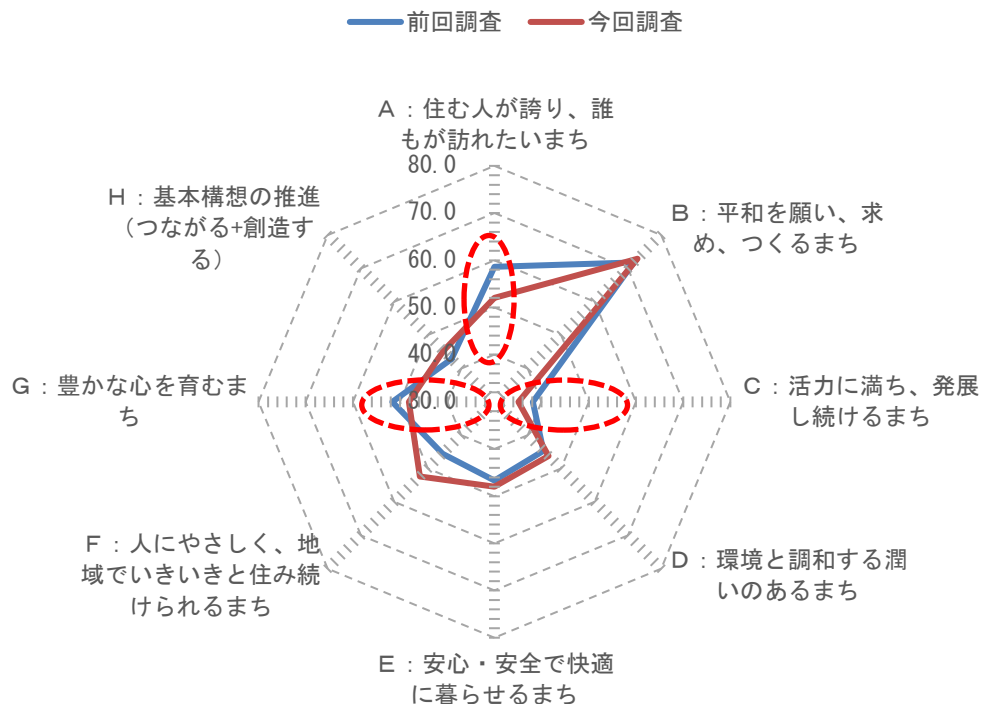
記号	まちづくりの方針
A	住む人が誇り、誰もが訪れたいまち
B	平和を願い、求め、つくるまち
C	活力に満ち、発展し続けるまち
D	環境と調和する潤いのあるまち
E	安心・安全で快適に暮らせるまち
F	人にやさしく、地域でいきいきと住み続けられるまち
G	豊かな心を育むまち
H	基本構想の推進（つながる+創造する）

今回と前回の調査のまちづくりの方針ごとの評価を期待度・満足度の偏差値により比較すると、満足度・期待度ともに前回調査を上回ったのは、「E：安心・安全で快適に暮らせるまち」・「F：人にやさしく、地域でいきいきと住み続けられるまち」であり、満足度・期待度ともに前回調査を下回ったのは「A：住む人が誇り、誰もが訪れたいまち」・「C：活気に満ち、発展し続けるまち」となっている。

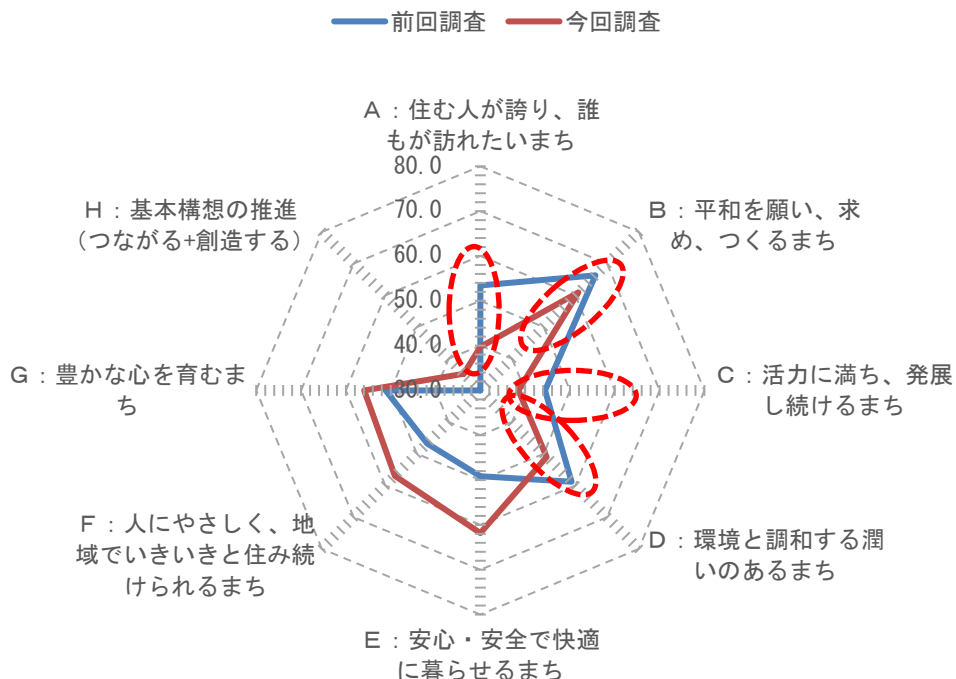
満足度が前回調査を上回り、期待度が下回ったのは、「B：平和を願い、求め、つくるまち」・「D：環境と調和する潤いのあるまち」であり、満足度が前回調査を下回り、期待度が上回ったのは「G：豊かな心を育むまち」・「H：基本構想の推進（つながる+創造する）」となっている。

※まちづくりの方針の数値の求め方は各方針の基本施策の満足度（「満足している」+「まあ満足している」）と期待度（「期待する」+「まあ期待する」）の平均値を各まちづくりの方針の満足度・期待度とし、満足度・期待度の調査年度ごとの偏差値をもって表している。

図表Ⅶ-1-9：満足度偏差値（全体）



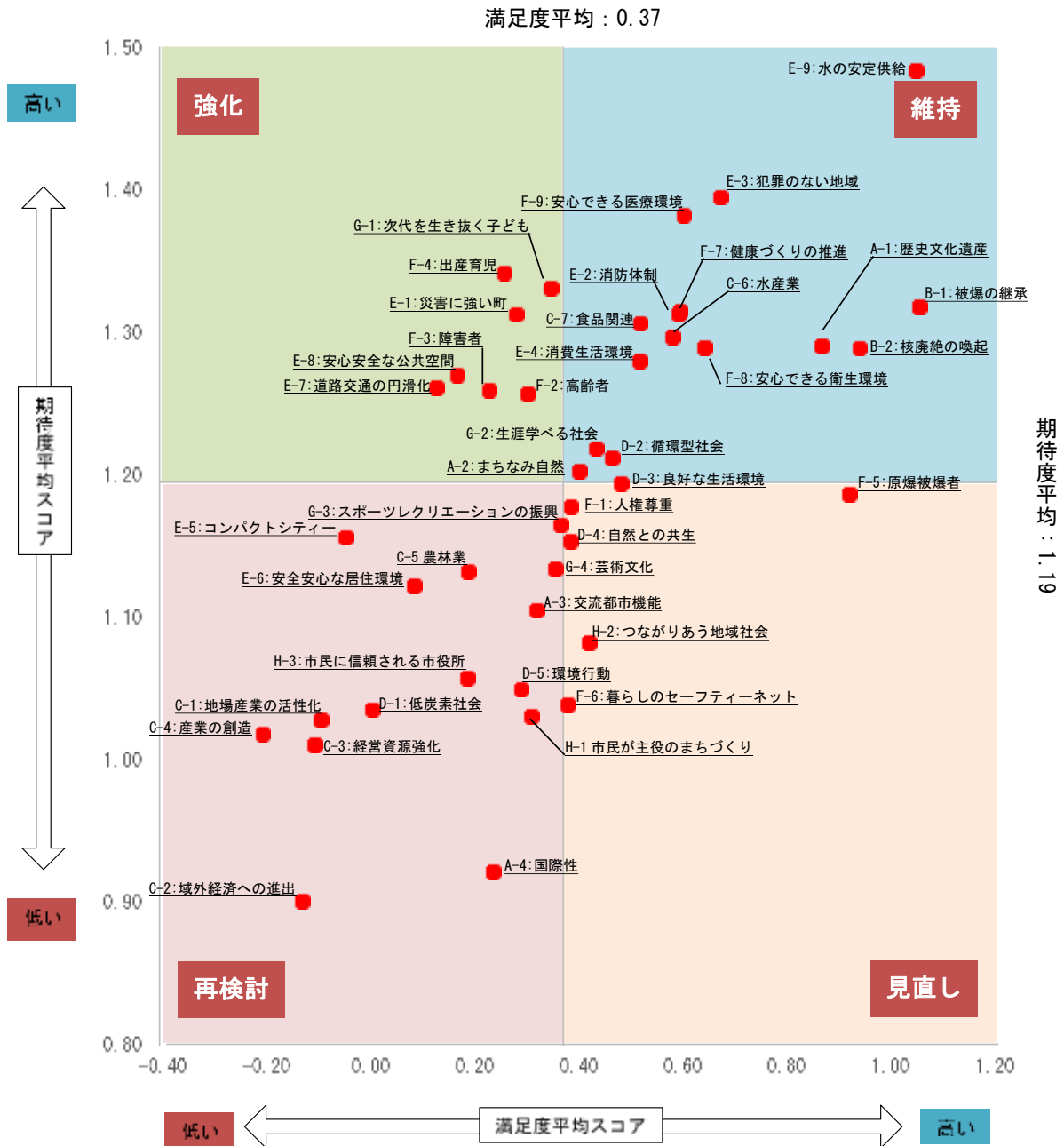
図表Ⅶ-1-10：期待度偏差値（全体）



2) 基本施策の領域分類

今回の調査による基本施策ごとの評価を「現状の維持（満足度が高く期待度も高い）」、「強化（満足度が低く期待度が高い）」、「見直し（満足度が低く期待度が低い）」、「再検討（満足度が低く期待度も低い）」の領域に分けると以下の通り。

図表Ⅱ-2-1：満足度と期待度の平均スコア散布図（全体）



①図表Ⅶ-1-11：現状の維持

基本施策	満足度	期待度
A-1 歴史・文化遺産を守り、活かし、伝えます	0.86	1.29
A-2 まちなみ、自然を活かし、まちの質を高めます	0.39	1.20
B-1 被爆の実相を継承します	1.05	1.32
B-2 核兵器廃絶の世論を喚起し、平和な世界を創造します	0.93	1.29
C-6 水産業で長崎の強みを活かします	0.57	1.30
C-5 地元農水産物を活かして食関連産業を活性化します	0.51	1.31
D-2 循環型社会の形成を推進します	0.46	1.21
D-3 良好な生活環境を確保します	0.47	1.19
E-2 消防体制を強化します	0.59	1.32
E-3 犯罪のない地域づくりを進めます	0.66	1.40
E-4 安心できる消費生活環境をつくります	0.51	1.28
E-9 安全・安心な水を安定して供給します	1.04	1.48
F-7 自らすすめる健康づくりを推進します	0.59	1.31
F-8 安心できる衛生環境を確保します	0.63	1.29
F-9 安心できる医療環境の充実を図ります	0.59	1.38
G-2 だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります	0.43	1.22

②図表Ⅶ-1-12：強化

基本施策	満足度	期待度
E-1 災害に強いまちづくりを進めます	0.27	1.31
E-7 道路・交通の円滑化を図ります	0.12	1.26
E-8 安全・安心で快適な公共空間をつくります	0.16	1.27
F-2 高齢者が暮らしやすい地域づくりを進めます	0.29	1.26
F-3 障害者が暮らしやすいまちづくりを進めます	0.22	1.26
F-4 安心して子どもを産み育て、子どもの健やかな育ちを図ります	0.25	1.34
G-1 次代を生きぬく子どもを育みます	0.34	1.33

③図表Ⅶ-1-13：見直し

基本施策	満足度	期待度
D-4 人と自然が共生する環境をつくります	0.38	1.15
F-1 人権が尊重され、様々な分野で男女が参画する社会を実現します	0.38	1.18
F-5 原爆被爆者の援護を充実します	0.91	1.19
F-6 暮らしのセーフティネットを充実します	0.37	1.04
H-2 つながりあう地域社会をつくります	0.41	1.08

④図表Ⅶ-1-14：再検討

基本施策	満足度	期待度
A-3 交流のための都市機能を高め、交流を促進し、賑わいを創出します	0.31	1.11
A-4 国際性を豊かにします	0.23	0.92
C-1 交流を活かした地場企業の活性化と域内経済の循環を促します	-0.10	1.03
C-2 域外経済への進出を加速します	-0.14	0.90
C-3 地場企業の経営資源を強化します	-0.12	1.01
C-4 新しい企業・新しい産業を創造し育成します	-0.22	1.02
C-5 農林業に新しい活力を生み出します	0.18	1.13
D-1 持続可能な低炭素社会を実現します	0.00	1.04
D-5 環境行動を実践します	0.28	1.05
E-5 暮らしやすいコンパクトな市街地を形成します	-0.06	1.16
E-6 安全・安心な居住環境をつくります	0.08	1.12
G-3 スポーツ・レクリエーションの振興を図ります	0.36	1.17
G-4 芸術文化あふれる暮らしを創出します	0.35	1.13
H-1 市民が主役のまちづくりを進めます	0.30	1.03
H-3 市民に信頼される市役所にします	0.18	1.06

3) 評価整理

今回の調査と10年前の調査結果のまちづくりの方針ごとの4領域比較では「F:人にやさしく、地域でいきいきと住み続けられるまち」「E:安心・安全で快適に暮らせるまち」が評価を上げており、その要因は「F:人にやさしく、地域でいきいきと住み続けられるまち」は満足度・期待度ともに評価を上げており、基本施策まで下げると、「F-7:自らすすめる健康づくりを推進します」「F-8:安心できる衛生環境を確保します」「F-9:安心できる医療環境の充実を図ります」が維持領域（満足度・期待度ともに高い）で評価されており、「E:安心・安全で快適に暮らせるまち」は「E-2:消防体制を強化します」「E-3:犯罪のない地域づくりを進めます」「E-4:安心できる消費生活環境をつくります」「E-9:安全・安心な水を安定して供給します」が維持領域で評価されている。

一方、「A:住む人が誇り、誰もが訪れたいまち」「G:豊かな心を育むまち」が評価を下げているがその要因は、「A:住む人が誇り、誰もが訪れたいまち」は期待度・満足度ともに下がり、「G:豊かな心を育むまち」は満足度を下げている。基本施策まで下げると、「A:住む人が誇り、誰もが訪れたいまち」は「A-3:交流のための都市機能を高め、交流を促進し、賑わいを創出します」「A-4:国際性を豊かにします」が再検討領域（満足度・期待度ともに低い）で評価され、「G:豊かな心を育むまち」は「G-3:スポーツ・レクリエーションの振興を図ります」「G-4:芸術文化あふれる暮らしを創出します」が再検討領域で評価されている。

4) 今後 10 年間の優先施策

今後 10 年間で「特に優先的に進めていくべきと考える施策 (3 つ以内で選択)」については、以下の通りとなっている。

図表Ⅶ-1-15：まちづくりの方針ごとの優先施策（全体）

まちづくりの方針	優先する基本施策
A：住む人が誇り、誰もが訪れたいまち	A-2：まちなみ、自然を活かし、まちの質を高めます
B：平和を願い、求め、つくるまち	B-2：核兵器廃絶の世論を喚起し、平和な世界を創造します
C：活力に満ち、発展し続けるまち	C-4：新しい企業・新しい産業を創造し育成します
D：環境と調和する潤いのあるまち	D-3：良好な生活環境を確保します
E：安心・安全で快適に暮らせるまち	E-1：災害に強いまちづくりを進めます
F：人にやさしく、地域でいきいきと住み続けられるまち	F-4：安心して子どもを生み育て、子どもの健やかな育ちを図ります
G：豊かな心を育むまち	G-1：次代を生きぬく子どもを育みます
H：基本構想の推進 (つながる+創造する)	H-3：市民に信頼される市役所にします

図表Ⅶ-1-16：優先基本施策 TOP 10（全体）

順位	基本施策	(%)
1位	E-1：災害に強いまちづくりを進めます	14.6%
2位	E-7：道路・交通の円滑化を図ります	12.8%
3位	F-4：安心して子どもを生み育て、子どもの健やかな育ちを図ります	12.3%
4位	C-4：新しい企業・新しい産業を創造し育成します	10.0%
5位	A-2：まちなみ、自然を活かし、まちの質を高めます	9.3%
6位	A-3：交流のための都市機能を高め、交流を促進し、賑わいを創出します	9.1%
7位	A-1：歴史・文化遺産を守り、活かし、伝えます	9.1%
8位	B-2：核兵器廃絶の世論を喚起し、平和な世界を創造します	8.1%
9位	B-1：被爆の実相を継承します	7.9%
10位	G-1：次代を生きぬく子どもを育みます	7.7%

図表Ⅶ-1-17：優先基本施策 TOP 10（市民）

順位	基本施策	(%)
1位	E-1：災害に強いまちづくりを進めます	13.0%
2位	F-4：安心して子どもを産み育て、子どもの健やかな育ちを図ります	10.6%
3位	E-7：道路・交通の円滑化を図ります	10.4%
4位	A-1：歴史・文化遺産を守り、活かし、伝えます	8.5%
5位	A-2：まちなみ、自然を活かし、まちの質を高めます	8.1%
6位	F-2：高齢者が暮らしやすい地域づくりを進めます	7.8%
7位	C-4：新しい企業・新しい産業を創造し育成します	7.2%
8位	B-2：核兵器廃絶の世論を喚起し、平和な世界を創造します	6.5%
9位	E-3：犯罪のない地域づくりを進めます	6.1%
10位	B-1：被爆の実相を継承します	5.6%

図表Ⅶ-1-18：優先基本施策 TOP 10（学生）

順位	基本施策	(%)
1位	B-1：被爆の実相を継承します	13.9%
2位	B-2：核兵器廃絶の世論を喚起し、平和な世界を創造します	13.6%
3位	E-7：道路・交通の円滑化を図ります	13.1%
4位	E-1：災害に強いまちづくりを進めます	12.2%
5位	A-3：交流のための都市機能を高め、交流を促進し、賑わいを創出します	10.4%
6位	A-2：まちなみ、自然を活かし、まちの質を高めます	10.3%
7位	A-1：歴史・文化遺産を守り、活かし、伝えます	10.1%
8位	E-3：犯罪のない地域づくりを進めます	9.0%
9位	A-4：国際性を豊かにします	7.0%
10位	D-3：良好な生活環境を確保します	6.6%

図表Ⅶ-1-19：優先基本施策 TOP 10（有識者）

順位	基本施策	(%)
1位	C-4：新しい企業・新しい産業を創造し育成します	23.9%
2位	C-1：交流を活かした地場企業の活性化と域内経済の循環を促します	19.7%
3位	A-3：交流のための都市機能を高め、交流を促進し、賑わいを創出します	18.3%
4位	A-1：歴史・文化遺産を守り、活かし、伝えます	14.8%
5位	E-1：災害に強いまちづくりを進めます	14.1%
6位	E-7：道路・交通の円滑化を図ります	13.4%
7位	E-5：暮らしやすいコンパクトな市街地を形成します	12.7%
8位	F-4：安心して子どもを産み育て、子どもの健やかな育ちを図ります	12.0%
9位	G-1：次代を生きぬく子どもを育みます	9.9%
10位	A-2：まちなみ、自然を活かし、まちの質を高めます	9.2%

図表Ⅶ-1-20：優先基本施策 TOP 10（職員）

順位	基本施策	(%)
1位	F-4：安心して子どもを生み育て、子どもの健やかな育ちを図ります	28.5%
2位	E-1：災害に強いまちづくりを進めます	22.8%
3位	C-4：新しい企業・新しい産業を創造し育成します	20.5%
4位	G-1：次代を生きぬく子どもを育みます	20.3%
5位	E-7：道路・交通の円滑化を図ります	18.7%
6位	A-3：交流のための都市機能を高め、交流を促進し、賑わいを創出します	16.5%
7位	C-1：交流を活かした地場企業の活性化と域内経済の循環を促します	15.7%
8位	E-5：暮らしやすいコンパクトな市街地を形成します	12.4%
9位	F-2：高齢者が暮らしやすい地域づくりを進めます	12.0%
10位	A-2：まちなみ、自然を活かし、まちの質を高めます	11.0%

（7）調査総括

今回の調査を考察すると、本市の住みやすさや居留意向の評価アップ、施策評価における再検討施策数の減少、現在の長崎市をイメージするキーワードが「親しみのある」「美しい」「個性のある」「健やかな」などぬくもりを感じる言葉が選ばれている。

一方、将来の都市づくりのイメージとしてふさわしいキーワードに「活気がある」「機能的な」など躍動的な言葉が選ばれたり、期待度と満足度の乖離の大きさ、強化領域施策がまちづくりの方針の「E:安心・安全で快適に暮らせるまち」「F:人にやさしく、地域でいきいきと住み続けられるまち」が多いことなどから、「長崎市で暮らすこと」を次のステップへ推し進めるための政策・施策推進に期待が大きいことがうかがえる。

